雑誌紙屑籠後編

中

へ13
3125
5

特
へ13
3125
5

雑誌紙屑籠　後編　下冊

一名反古張障子

十返舎一九著

東洋文庫

陸奥くちろ〳〵出羽歌の試みを月夜の釜

さてゆく〳〵こと業除特の儀ろ心

よふ浮雲きまきめん。河豚の物ろふと。風の神よ魚

業物の出をとかゝてゆると。齋藤とゝてゐる食べの

宮殿云ちゐるべゝ。ゆゆ稼べ後ふゝゝとゝらゝど。何ごとも

いゝざろゆ考〳〵ふゝ。ばゝ殿よ素所ちの考点

ぶてまろと。茶屋の亭主の男よ。大屋いちのうとへ。
空家の沙汰ゆーて。よれんとゝゝいうまぢ。さく次の
道よかゝるて身ることまろものへ。利益をかくゝして。
唯その男よまろうをゝ寄ゝとまろもの。年て高上
まろうよだゝ。或茶やの亭主ホ。ちゝゝ東自慢
ゝてゝ。おのまとのゝ利にゝ知るゝ男。まゝまゝとまや
女房おゝのけてまろ。ゝゝ見ゝいろもようゝ所
流よゝ人まと。まろゝ南新橋ゝ。世茶やどおとゝへ

まろまろゝゝだゝり。湯屋より流でゝ。ゝるゝよるゝてゝゝ。
誰ゝ居ませぬ。そゝゝとホ小屋のお親戚とへ。おまゝと
中せば流ゝ。ゝゝ見ゝ出ゝ面時へゝえがゝのゝぐんゝ級ホ結
妹のかゝゝ。ゝゝ長樣ゝゝてゝゝゝゝゝとへ
ゝへゝまゝとゝ。ちゝゝおぢまゝをかへて出ゝゝゝまゝとゝ。
のおゝげゝるゝゝ。まゝゝどの浮ゝをおゝと出て。
ゝんまゝゝゝねゝ。ゝゝよ赤面ゝゝる。ゝのゝゝ門ホ。ゝの
ゝへ迫ゝてゝゝ。ゝゝ組ゝよゝの紙ゝとゝゝへ。ゝゝゝゝ

あつまりて、かゆ〳〵。かゆまて通用の米なきもの〳〵、捜るく喜ん
こゝ。ふるとこゝ多さるゝと。幸抱〳〵てきるかゝりゆへ。大分の
扶代をとうんとこゝく貧さて。跡ちゝ浪のあつ人を。
とゝとゝ利て世界よ美神さるのちきこゝめへ。剣さる
も。そこ身の矣ようあとろうるべし。花のお江戸のあゞこさ
ゆへ。遠國〳〵猥ゆてまるく。かゝゞとえるみ毒〳〵て
ゆうつ元。忽ち出地面とへくゝも買おもうよ出るへ。
あゝ。ふの地の一徳ゝ。そこ〳〵ゝまゝ。ちくへぬきの高

く。身とゝまゝゝへ。皆ちの不思ゝ。ようおとゝ。
利ちのさゝゝへ。ゝ。ちゞひて。ゝ。ゝ。
るれ世ゝ。ゝも新ゝとあゝ半〳〵。金銀ちれゞまゝ
そゝとゝゆく。素俳ゝらゞ。ひゝうゞゝよいるゝへさせ
ぬよの中。ゝ文ゝゝゝゝ月のされゝ。金銀のゞゝついて
ある。ゝ花ゝ生ゝて。異ゝと天狗の方へて。毎年大
晦日ゝへ。ゝへゝて当ゝとつゝゝと持ゝ。ゝゝと垂
ゝゝゝゝ。ゝきゝゝへゝゝ。おのゝゞゝかゝゝる。人ゝ

むりひて。且那ゆへまぐ。作形彩ぐうつませぬ。ごうく 炎
ぎとのとこへ稽で物るうちへ。ねどもも任せ多へ。且那の
捌きへとをうまませぬと。ちうも滅空の中で。ごうぐとの
出ろ〜。新せうとび〜。産業とこてびとをへあらん炎
多面方のおいでう。仏〜へ糸のぎ〜きへいの中。妨ふござるう。
正仏の横ちあうまとこ。ようへ新ゆで。ういとの
くちう〜へのいやがることとうあを稲美ちこちうえる。ふ
どこゆも。へちに仏ちあぐでまるゆ。ゆくまをして出を絹

つうざると今日五月炎宮を刺とがち。接ニノを渡世
ニーてあうよう。ひとの冷紙べひりぎとうふとこと。
今ちうての利業をうんとうへべ。たふあうぎ。ふの場
至とかうこうるゆへおりーき性ありとよく出ろうる人の
うることきけば。仏多滝章宮ふきこてこれ時分。
因人生の大臣そぶあて行ア日和よ。出ろうこうるふ成ろう。
名原喜新へ。おこぶうふゆも見ーうるとと出交えの女
ど
催炎の為と出ろうでまをと。仲宮のちこうこうの足人を

かくしん。まんまと色よ出むせいづるとも綾羅をかざり
大門に出るゝと。肩をいからし。仲の町の茶屋より呼とゝ。五
三五万八の袋とゝみて。ゆるもかさるよ出りけ。茶屋へ
内証ナニヤラ〜ろハ大ゝ分国ふて。金銀の出ぶ中のき
ゆへ。こぞく蔚桂さだろ伝出屋ゆるとゞ。はきぶんまぶんで。
当年中居づけあろうも考えどゝ。ゆるぶ〜ゆけさゝ人り。
今日そゝどめその分出ゆるゆゝゞ。ふゝゆゝ要者内史。ゆゝでゆゝとも
ゆるべ。ゆ金の屋ゆ分ゆゝゞ。ゆゝでゆゝゞ。ゆゝゞゆゝでゆゝとゝゆゝ

そゝゆゝゞゞと。ゆゝゆゝゆゝ男。ゆゝゆゝゆゝ初公乃
いゝゆ。ゆゝゆゝゆゝ小判の花とふゝとつゝりゆゝんでも
この糸の猫の抓。猪出ゝてゝゆゝの人と。亭主のゝゝろぶ
よゝとゝゆゝゞ。ゆゝゆゝゆゝ

ち投の男をとうけいぶを。表ざしきゆへ大そうとあれこう
まれたお髭の蔓をこうぐ。追従こうぐ。こやしと
つまびこの大そうもおうしいゆうぎ。こまてく。夜の夜化
い。格好よう天井がひくいよ。あんまりのぐーて。ゑる多
く。おもいくちあひ。こまえ上手出来まーと。ぎこひ
ぐちゆーて。さびぐよ。蒲団よりおどうこう。おうへ三蒲と
いう。金盃。唐さの西施。腐敗。ぬこのけーらよ。数数。
大そこの外きびんよく。お眼を糸のこく。あーて。分

舎ろびこ。明日よう当月中あげづめ。あく。弱米八五
用こりよこれ。茶やの支度。摂よこまで。つきちこうひて
きこうこまびこ。こうまう出て。ゆる。後日いまるいち
ろこーこの客人ゆて。ゑてこの客よおやこくあれ
べーらよ。ちこーべ。後ゆこうこ。きこんてらよゆでらや
ちこ。ゆうのおあまよ。ようけうよう。上のこく
いこれ。大そこむこーこ。新ゆてここ。ゑれこと。四舎
かの三ちこくあり。ちこ舎ろつけて。きをかこと

くらべ。かねをとりて。あたへ。百姓。なんぎ。なるなり。明れの
おあへ。百姓。金をとりて。なんぎ。なるなり。おくる。きりもひと
きりおれ。御年貢の中きげん。きびしく。年中も
手をつくし。あらせ。出さるゝ。ともあるべ。そもそもこれ
りうきせ。なれば。あるゝ。人お。返りなりゝ。しかる。大ゝ
いよ〳〵。癖よさりて。さあらべ。こゝろ。きびしく。結びごとて。
その。百姓。ゝ。ゝ。ゝ

そなへひきこうるぶ。ろんとおそ〳〵月年ひと〳〵と
いへども。初舎ろ〳〵待出とといふとく孫ろうでれある
まの。唐土へ入るふうの返礼ゆへ物ろうとも茶あ〳〵べ
ゆせらへ入よ。さろうぶ勝とろ。祥ゐるろと〳〵ろと二ろい
ぶ〳〵ヨの造作をいろ〳〵くるきお船ひとへべ。それだろう
ろんまよ
ろとろろうよおよのべね。すりとたるきとゆせといふとれ。
ろろうべ迎すのとろふ商者るの品者といふきせ廣
とりすの独とひきて。ぶ腹をへうきヨんきれべ。それろよ

下七

まぐおまけゆへ女房ぐもべ年月れ差べきそのぶ祝
ぎ
いべとろそろよ源兵衛母ぐ出商売新礼いろ〳〵。その
番菓子も出一ろよいべきろんお弱ろひとへいふとれ茶
八ろりとろて。そろ〳〵へろ〳〵差ろ〳〵山造作代物角と
合せて。唐〳〵へへ金ろ張出。ろ門後へ結縁じゆ稽細
ろろろろ
ろ物へて十文ろ〳〵紙ろへらやろへいふそれへ五ろと
さろぎろとお別。茶や仕物てよろ仕まるれ仕合ろく。屋
ろちつきてよろろへべ。茶やの男出ろのろろ〳〵そしり出。

あるひとさるぐつのあるかぐやひめかもとへ
まかりとぶらひしに彼ひめ又六年のうちに
死。後文坂東人
つゐてまいる給事ゑ為用のかぐやひめ出家をな
いろとさろうとゝあるあるしいやつそまも故郎とうけとむ
正ところよ。内侍の男ゞ程牙ゆゝぐやぐうとぐとく。
今為宿ゆてぐうるゞ廊下ゑゝ延生第二階のそゝぐ
ゝ為ゝる示ゆゆ人とゑぐよいゝてかゆゝ示為を
ゝゝゑゑゝゆゝ生ゝゞ俳ゝるゞゝ俳ゝよるゝゆゝゝ。廊示程仏の

まかりとぶらひゝ中を遠まハゑべとれも
旅を示ついて四ゑとむゝゆゝ示香とむ後ゝゑとの仏彩
とゝよゝてゝゝゝゆゝてゝゆゝゝて。そゝ彩ハ俳示あゝて。程ゝる
朝大ゝゝゑゑゝる。市ゝゝゝの石彩今者ゝゝゆゝゝゝゝれば
茶屋ゑよ為ゝて。ゝゝゝゞ牙俳ゝのゝゝゑとゝきゝゝよゝ。為ゝむ
ゞけゝくゝかゞどゝゝき。さゝゝゝゑゑ為ゝゝゝてゝけ
いゞゝと西為ゝゝゝゝゞ。ゝおゝゑゑゝゝて今の後悔。ゝゝの人
ゝゝゝゝゝゝ友ゝゞゝのゝゝおゝ雪ゝゝゝゝと像ゝふゝゝ

るんと亭主よりき初恵あらべかりそ。肖へ盗ぬ不判
の山とつけて又せるとせきどころよりんを山きべてかしを首
ひ孫ろそ老人むろよう殿法不。かそひとちよそへるきと
るすがら。是だろうるへぞふゆう業ひろるそるるところ
あいとい不なを石初ちろをるて。金づくふてるることとるらべ
いろゆうそもそ方の人まろせ。頂ろ方ちろと出せとあいて。
高堂ふいびろるう一まれるせつけそまてへ山いふゆうるる
ちど腰ふ法いどまとの初来るるがら。山家人初金るれべ

あるがちおとそて。法そろとらふもあそぎ。汚きがんよ
ちとしのるる積ふさろうを他ふらゆてうけ出さんとの
ことるを兄べ。伊とでそ大兵くの種巾兵方八とふ来
社よ。内俺ろうかとのこあべ。あちうの殿る文ふ邪テ
いまるるるへ。法合とらべ石初堀びそれへ耳ようそのの
月八よ吞とせゆうへとふ。そこへふ判で家るるる。金よ
さ人るるるるる。負殺絢とさきて生所でもさしいどま
別怒方のまとう人まうせあとべ。そるへ孫堂そのるう人

ぬきさし　のぞきしぐち

舟ばりの八畳ばかり。万八へやみさまあたづむべし。それゆえ彩むし

さいしん　さいちう　あ渡ち水中の汐入。万八異のうえよ汗とうきて。臭絶あへぐ

きこうりはまべ。ばかりあるよう。ぞまえよい西。仕合かとこめ

きんぐ　金狼のつうこどうとえ巻えのこと。あやうしふと脊中とさて

けべ。万八ホぐくしき船をして。そうるこのそのきりんわど。行

わいこうる。こうくちさえでこうえるうぬ。とまホめんどて

まつうえ　不巻このむと。陸中をこえこうう。坊ゑ亮ゑきこうれと

して。巻えあるいもようね。彩四人よその体ハとい人なる万八

ちあるくこうてきのゑたどあて後ふ！しまうし四金大巻

砂浜のこく。絹車て西うゑ見しゆいよくこうあ亮めよ

巻ゑ巻寄人巻糸しホ。宿住大だうゑ動宮してうよ

尺四ちるうれて。國えへ西うゑ見しゆこのこと。さるうのふで

くしかのえたまどこうあるも一ばえうれてあるどやうホ

ふたうら　ちゑ手ホのきかのひとうるうて各とちるみまうこう

しまおもうくほいホしてゑ二国用ゑくこの彩さけて古の

ひとうえ　ゑ巻えとまべきこうあうひきうて吹くの巻ゑ巻ホあどゑ

えんめん
場面〳〵の人〻て出来事は場とうけるどて。出〻くと
ゆつて投げ出さるべし。とかく〻搭まとちとうひてさそも
きう〳〵ひんぶ
どさるるを〻〻てうがさやし。今おし待て。こるこうひに出る
しこあて五十歩の金六歩のうちの中へ場を出ると
のこるうぶどる。ほ拾つこうる。ろうもづこれる残金ろへ。
万八一分金ひぶ。場をよるうぶどるもよい状るう。別
まとるもようこうものそのまこるほ入こる千金ひぶ。ゆめ
こ〻て寿ひべ。こ〻〻のるのあるこうとうろ外文のるす

ひるうぶ
四分〻大ひ〻のうこうとやめさせ。けるうへこうりこるるべ。
孔金五十歩のつりうほて。今きこのうこうへ。さのこほ人。
をつうれこと系。今まこと〻ほこの本あうぶおそいとぶう
ぶゆもるうぶ。ひるう人ひけこ系れもいうぶ。ゆも
ゆうさぶ〻てみ十歩ひいうほこうほるる系を系るてお
ちうこおさ〻。出物は傷さうこへてきのどくるるべ。けるう
いうべ
名級よりめぶうひべ。こうとかへて痛がよるるる
しのこうこうひ。ひる八ひうこうあうげほ。ぶうぶあるるを

るでまん〜。ぞうりとるりてぞうんとまれへ。とーが
ぬけてひよろつき。せもそれ夜のまんるうしく。儀
謡うまあづろうこい。おろろうるーをとのむく。花初の
まくくまひいつまだ。まろるしふ。岩角の合ぞ金
ぞふもみだろいとい移びるをを迷ないるるるみまる
でいひとろとつぶやきーが。ぞれまうとと持も外岩
あーく。あの天窓のまう。今ん特ぞうーてあの体とむ
くーとろろーーーまとろ教

第五

妻の見人本
姫さろ皇の上級

解かる雪見の二階ま猫ころうと
猫ま小判の耳とまろ
雪の恋い　吉穀持

たくはつこのはまんもくとらよやだいーやさどれうるもど
人のるまひとるとをとことしまろうぎくさだ
おきくいのくいたりてあるきもむこまめのる
うろくいちめんのくろうくかくとろ人のくまう
どーとよどまさうろるあるきひどろ
ぼのあるるうんね。こうよやまどぶく
まんまくのかくくまるろうまそ
れんかまろくまるうまる
いろまのるくるかまりけくう
そのるるいたろるまきま
ちややまそめみをとよ
ちくるうそのやうもき
ろるーまいふはまんたく
ろろこびまるいとうの
いーぶとのこうけんて
ありんにまりーさろうの
こともいそのかくるとりん
どんろをひとうこーらくこ
ゆーづよりーかーをのまとるの
もこれいきまいろぬらや

これがよいるざまるこ
えるのくちうこれいひ
ゆくきこのふてものこく
るるのるろまきあ
ひんるまきあ
ひひまこきとと
ありころこの
ろれくこと
えるふ
して

作者口上

第六

年の功よりも
世の孝行者

色と欲と一筋の持糸よ
粉粧の油あぶら小雪あこうせを
ふつくり松魚の智恵代長

つゞき